

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270200399		
法人名	社会福祉法人光の子福祉会		
事業所名	グループホーム光の子		
所在地	長崎県佐世保市上原町749-1		
自己評価作成日	令和7年1月11日	評価結果市町村受理日	令和7年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 7年 2月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中で、認知症の高齢者が9名。入居者様と職員とが家族同様の関係の中で、気心しれた雰囲気です。午前、午後とレクリエーションの時間を設けて入居者様同士の交流にも力を入れています。同法人で保育園・幼稚園を営んでいる為、園児との交流があります。又、隣接しているケアハウスと合同で秋祭りや焼き芋会を開催し、交流もあります。職員は認知症ケアに全力で取り組んでおり、基本理念に沿って日々の生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな高台に位置している。令和6年から隣接する施設の厨房で食事を作っており、職員の空いた時間を入居者の支援に活かすことに役立っている。室内では、さまざまなレクリエーションを楽しみ、法人施設合同の催しや地域祭り、季節毎のドライブにも出掛ける等、企画が増えている。運営面では、法人全体の職員で組織する委員会活動が充実している。介護力向上委員会は、支援方法の標準化に取り組んだり、身体拘束適正化検討委員会では、毎月検討内容を職員にフィードバックし、拘束のない支援に取り組んでいる。介護計画は法人ケアプラン委員会と共有し、丁寧な過程を経て見直しが進んでいる。便りでは、日常の一コマを瞬時に捉えた写真から入居者と職員と一緒に楽しんでいる様子が伝わってくる。入居者のたくさんの笑顔を引き出し、尊厳のある生活という理念を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に基本理念を掲示しているので、理解しながら理念に基づいたケアに努めている。	理念の中の“個人として尊重、安心と尊厳のある生活”を要点として、4つの目標を掲げている。新入職員には、採用時に理事長、施設長から説明がある。資格保有の職員が多く在籍しており、職員は、入居者のあるがままを受け入れ、尊厳を保ちながら安心できる環境づくりに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策に配慮しつつ、隣接しているケアハウスの方と合同での秋祭りや焼き芋会等行事を共にすることができた。また、地域の行事に参加する機会が増え、交流が広がった。	入居者は地域行事に参加した際に知人と再会したり、町民による日本舞踊や合唱に触れ、交流を楽しんでいる。また、餅つき大会や焼き芋会、幼稚園児による歌や踊りの訪問等、法人の他事業所との交流も増えている。ボランティアの生バンド演奏の訪問を受け入れており、今後も地域との交流を増やしていこうと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室などを通して取り組みを理解してもらっている。今年は感染症の状況もあり、開催できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議では、運営趣旨や取り組みや活動状況等を報告し意見や要望等を頂いている。また、困難事例や事故発生の報告なども行い、頂いた意見や助言を職員と共有し、サービス向上に努めた。	2ヶ月毎の対面による運営推進会議は、法人事業所合同で開催し、公民館長はじめ、多数の地域住民代表が構成委員として参加しており、利用者状況や活動報告等行っている。委員から招待を受け、入居者が地域行事に参加する等、意見の反映例がある。ただし、参加していない家族に、運営状況等の内容が伝わっていない。	参加していない家族にも、会議内容を伝える手立てを検討し、共有することが望まれる。さまざまな意見を募り、更なる事業所のサービス向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請などで支所を訪問する機会が多あり、困難事例等あれば、その都度意見交換行っている。	介護保険の更新手続きは、法人と連携して行い、事故報告や入院手続きは、管理者が支所の窓口を訪問し行っている。市担当課の訪問時には、家族に書類を確認して貰い、何かあれば、電話で相談する等、協力関係を築くよう取り組んでいる。行政からの研修案内は、法人施設内でオンラインによる合同研修を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体、各部所としても身体拘束廃止委員会を設置しており、毎月委員から資料をもとに拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	法人や各事業所に身体拘束適正化検討委員会を設けており、毎月の事業所の検討内容を法人全体でチェックする体制を整え、フィードバックにより職員に周知を図っている。また、職員は年2回の研修で、尊厳を守る介護を行う為の研鑽を積んでいる。帰宅願望のある入居者を散歩に誘う等、拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止対策委員会中心に学びを深め、尊厳の保持、人格の尊重を、重視して虐待の早期発見と早期対応に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	佐世保市から配布されたパンフレットを基に勉強する機会を得た。また、同法人で制度を利用されている事例等を共有し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時には文章と口頭で十分な説明を行い、了解を得て契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様及びご家族様からの意見や要望等をもらえるような家庭的な雰囲気作りに留意し、ご意見を頂いた際には会議等で話し合い、反映している。	現在は、15分間の面会が可能である。事業所は、面会時の他、家族が不足の品を持参した際等に、要望を聞き取っている。入居者の支援に関し不明点があれば、家族に尋ねることもある。毎月の便りは、写真入りで暮らしぶりを詳細に記載している。この他、行事毎に入居者の写真を送付し、家族に好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や主任会議を通して職員の意見を聞く機会がある。また、個人面談を実施して職員とより良い関係づくりに努めている。	法人には、全職員で構成する“介護力向上委員会”の他10以上の委員会があり、研修や活動を行っている。メンバーは、定期的に入れ替え、全職員が運営全般に係る仕組みを構築している。職員は、毎年自らに課した目標を事務室に掲示し意識を高めている。また、子育て世代の職員にも配慮した労働環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりがいなど、いきいきと働ける環境を保つため、給与水準を上げるなど、職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意向を重視し、職場内で資格を活かせるように資格取得に向けた支援を働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回外部からの講師を招き、学習会等に参加(勉強)する事により、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の事前面接の段階で今までの生活状態を把握するように努めている。要望や困っている事、不安な事を把握し、少しでも解消出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの希望や要望等を伺い、事業者としてどのような対応ができるのかを事前に面接の段階で説明し、少しでも要望に近づけられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人をよりよく知るためにアセスメントをしっかりと行い、「その時」必要とされるサービスだけでなく、本人の気持ちを優先しケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活ができる「家」として、共に生活する家族として日々を過ごして頂けるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には最近の出来事や体調等を報告し、現在の状態を確認して頂いている。些細な事でも必要に応じて状況を電話にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会も出来るようになり、家族との交流もでき、地域の祭りなどでは馴染みの方との交流ができるよう支援に努めている。	日頃から、皆でミニトマトやサツマイモを菜園に植え、収穫を楽しんでいる。正月の初詣や書初め、暮れに餅つきを行う等、季節毎の行事を大切にしている。盆には、遠方の親族が訪れている。入居時のアセスメントで生活歴を把握しており、元和菓子職人だった入居者が誕生日のケーキの飾り付けに腕を振るう場面もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを通じてコミュニケーションを図り、お手伝いなども協調性を持って頂くなど、仲良く信頼関係を保っている。入居者様同士の関係が円滑になるように職員が間に入り、働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に来訪して頂けるような雰囲気づくりに努めている。行事の案内(バザー、納涼祭)等を送付したり、相談などがあればできる限りの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人本位で検討している。訴えが困難な方は、言葉や表情からその真意を察したり、ご家族から情報を得るなどして、検討している。	起床時間は自由であり、外出する際は入居者を尊重して服を選んでいる。言葉の表出が困難な入居者には、表情の変化に注意するとともに、申し送り事項から情報を得ている。花見の後に感想を聞き出すこともある。入浴時に聞き取った話はパソコンや申し送り帳に記録し、職員間で共有して支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、またはご家族から今までの生活歴の聴取を行い、その人にあった生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活動作、食事のお手伝い等の状況を観て、ご本人の身体能力、心身状態を把握し、一人ひとりに応じた暮らしが出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が自分らしく生活出来るように、ご本人、ご家族から要望を聞き、課題となることをケアプラン委員会や担当者会議において検討し、プラン作成に活かしている。	介護記録システムを導入している。担当職員が、支援内容を3ヶ月毎にモニタリングし、看護師を含めた法人のケアプラン委員会の検討を経て、担当者会議にて全職員の意見を基に見直しに繋げている。本人の些細な言葉を受止め、プランに活かしていることが確認できる。面会時に家族の意見を聞き取り了承を得て、実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づき等の記録はPCや申し送り帳や連絡帳に個々に記録を残している。その記録を基に一日3回のミーティングを行い、情報共有し実践に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の居宅介護支援事務所等と連携し、その時々状況に応じたサービスが受けられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加したり、外出支援を行い地域の方との交流ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が希望するかかりつけ医への受診を基本的にご家族支援でお願いしている。2週間に一度の嘱託医の往診を受けている入居者様もいる。	協力医による2週毎の訪問診療の他、歯科は必要時に往診を受けている。かかりつけ医は家族が受診支援を行い、受診結果は家族から報告を受けている。他科受診は、協力医の処方箋で対応できている。併設法人看護師による指示や助言を得るとともに、夜間緊急時のオンコール体制等、適切に整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接しているケアハウスやデイサービスにも看護職員を配置しており、緊急時などすぐに対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、本人の状態等の情報交換を行っている。また、早期退院(3カ月以内)の為の話し合いを行っている。また、その際、当ホームの受け入れ態勢も説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合について説明を行っている。重度化した場合には系列施設への移動なども含め、ご家族の意に沿った援助を行っている。	現在、体制が整わず看取りには取り組んでいない。入居時に“重度化対応に関する指針”を基に、家族に説明し同意を得ている。事業所での対応が困難となった際には、法人内の他施設への移行を提案することもある。ただし、上記指針では、医療機関との24時間365日の連携体制を表記しており、実際の取組との相違がある。	事業所の看取りに対する方針を明確にして、家族に説明を行うことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急手当や蘇生法等の勉強会や研修に参加し、全職員が緊急時に対応できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回、昼、夜の想定で災害訓練を行っている。スプリンクラーの設備、緊急連絡網も整備している。また、現在はBCP対策委員会を中心にサービスが継続的に提供できる体制づくりに取り組んでいる。	法人防災委員会を中心にBCPを策定し、非常用食事を提供する訓練を行っている。春に火元を隣接する施設とした夜間想定火災訓練と秋に地震後のライフライン遮断を想定し、発電機を所有する隣接施設への避難訓練を実施している。備蓄、非常持出も整備している。ただし、事業所を火元とした火災訓練を実施していない。	今度末に消防署立会い、夜間想定火災訓練を予定しているとのことである。その際は、事業所から出火を想定した訓練実施に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを心掛け接遇の取り組みを行っている。倫理委員会を中心として施設職員として入居者様を尊重する姿勢を忘れないよう取り組んでいる。	介護記録は、外部から見えない場所に保管している。入居者の呼び方は、苗字にさん付けとし、職員は守秘義務の誓約書を提出している。入居者の写真の使用についても書面で同意を得ている。居室には、トイレと洗面所を完備し、尊厳に配慮した生活を重視している。パッドは、人目につかないよう専用の収納棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のその時の気持ちを尊重し、出来るだけ自己決定して頂けるような援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態を把握し、その人のペースに合わせた「その人らしさ」のケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や行事や外出時の時、身だしなみに気を付け、その人らしいおしゃれが出来るような援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけで行うのではなく、準備や後片付けなど感染対策を行いながら、出来る事を手伝って頂いている。献立も季節感のある食材を使用し、正月や敬老会やクリスマスや大晦日等の行事には特別メニューを用意している。	食事は、令和6年1月から隣接するケアハウスの厨房で作っている。入居者の嗜好調査を行い、代替食にも対応している。敬老会では、刺身等の特別メニューや時にはステーキ等、バラエティに富んだ献立である。桜餅や栗ご飯と季節感を大切にしながら、皆で誕生日のケーキやパフェを作り、食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は記録に残し、入居者様一人ひとりの体調を把握した上で援助を行っている。献立についても併設施設の栄養士よりアドバイスを得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者ごとにアセスメントをとり、その方の状態に応じた口腔衛生の管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録する事で入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握している。出来るだけ自力でトイレで排泄を行えるように援助している。	居室にトイレと洗面所を備えており、羞恥心に配慮したスピーディーな支援となっている。歩行が困難な入居者には、職員が2名で介助し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。布の下着の入居者もいる他、入居者毎に、パッドの大小を検討しており、退院後におむつ使用から改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給はこまめに行い、必要な方には便秘予防にオリゴ糖などを提供している。また、入居者様にレクを通して適度な運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その都度理解を得た上で入浴して頂いている。拒否がある時や体調不良時は曜日を変更し、気持ちよく入浴して頂けるように援助を行っている。	日曜日以外毎日湯を沸かし、週3回のペースで入浴を支援している。事前に浴室を温め、ヒートショックを予防している。介護度の高い入居者には、足浴とシャワー浴を組み合わせている。清拭も実施し清潔保持に努めている。好みのシャンプーを使用している人もいる。入浴時は、職員と1対1でゆっくりと話ができる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動量や体調を把握し無理のないよう休息してもらえる時間を設けている。日中は活動を促し、夕食後は休息を入れて落ち着いてから寝て頂いている。入居者様一人ひとりにあった生活のリズムを整えられるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルを作成して、職員全員がいつでも情報確認出来るようにしている。臨時薬がある時は症状に気を付けている。特変時にはかかりつけの医師、看護師へ報告し指示を仰いでおり、ご家族にも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理なく出来る事を手伝って頂いている。その意欲を重視して必ず感謝の言葉をかけるようにし、役割や張り合いを感じられるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には散歩や外気浴など行い、花見や紅葉見学や初詣などは年間行事として計画している。今年はコロナの為、施設敷地内で花見や紅葉見学を行った。	日常では、畑にプチトマトやサツマイモを育て、収穫を楽しみながら、外気に触れている。季節毎に、桜、つつじ、紫陽花見物のドライブに出掛けたり、早岐茶市や案山子見物、地区の夏祭りも楽しんでいる。その他、神社の例大祭や寺の紅葉見物と年間を通じて、外出の機会を多く作り、入居者が楽しめるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援(祭りや茶市など)の際にはご家族から小遣いを預かり、ご本人に持って頂き好きなものを購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば併設しているケアハウスの公衆電話を利用されている。また、状況に応じて家族からの電話をとりついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様は日中、ホールで過ごされることが多く、毎食後は職員が換気と掃除を行い、快適な空間となるように努めている。また季節を感じられるような壁画を一緒に作成し、掲示している。	雛段の飾りつけがある他、創作活動の一環として、季節花の貼り絵を入居者と職員で作成し、壁に飾っている。中庭や風呂場窓から、天気や季節の移ろいを感じることができる。入居者がリビングに集い、談笑する様子は和やかである。環境・美化委員による清掃や空調管理で、居心地のよい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファが寛ぎのコミュニケーションの場となっている。一人になりたいときや、ご家族と過ごされたいときは居室にて寛がれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や好みの物や写真等を持ってきて頂いており、入居者様にとって居心地の良い部屋となるように心掛けている。	居室には、仏壇や筆筒等の調度品を本人の動線に合わせて設置している。園児からのプレゼントや米寿の祝い、習字作品や似顔絵、家族からの手紙等、入居者の好みに合わせ飾っている。空調機器による温湿度管理で、過ごしやすい居室となるよう整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に留意して廊下や、浴室にも手すりを設置し、安全に生活して頂けるように対応している。居室には洗面所、トイレが設置されている為、自分で洗顔など出来る方はして頂いている。困難な方には一部介助にて支援している。		